

各 位

会 社 名 オンキヨー株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 大脳宗徳  
 (JASDAQ・コード6628)  
 問合せ先  
 役職・氏名 取締役 林 亨  
 電話 06-6226-7343

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年5月24日に公表いたしました2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正について

(1) 2020年3月期 通期業績予想の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	25,000	500	300	—	円 銭 —
今回修正 (B)	32,000	△2,500	△2,650	△3,000	△21.60
増減額 (B-A)	7,000	△3,000	△2,950	—	—
増 減 率 (%)	28.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	43,836	△1,052	△1,676	34	0.32

#### (2) 修正の理由

売上高は、前回予想から7,000百万円増加する見通しとなりました。セグメント別の内訳は以下の通りです。

AV事業では、2019年5月21日付にて当社ホームAV事業の譲渡契約を締結したことに伴い、2019年7月までのホームAV事業の売上高を当社業績予想として織り込んでおりましたが、2019年10月4日付「(開示事項の中止) 子会社の異動を伴う株式譲渡及び子会社の一部事業譲渡の中止」にて公表しました通り、当該譲渡が中止されることとなり、ホームAV事業の売上高を当連結会計年度末まで含めた結果、売上高は増加いたします。しかしながら、縮小が続くホームシアターやシステムコンポ等の従来型ホームオーディオ市場が当初計画の想定以上の落ち込みが見込まれることに加え、当社の主力製品であるAVレシーバーの全世界市場の低迷を背景に、開発製品の絞込みと機種数の削減を促進し、選択と集中を加速させるホームAV事業の構造改革を断行するため、前回予想の想定を11,500百万円上回る程度にとどまる見通しとなりました。

デジタルライフ事業では、高付加価値のワイヤレスイヤホンやアニメやファッションブランドとのコラボモデルの販売が好調に推移したものの、不採算モデルの整理や、欧州における販売計画からの下振れにより、前回予想の想定を2,500百万円下回る見通しとなりました。

OEM事業では、加振器「Vibtone（ビブトーン）」を中心に、新規分野及び販路への参入を計画しておりましたが、その受注が当初計画を下振れるペースにとどまる予定である結果、前回予想の想定を2,000百万円下回る見通しとなりました。

営業利益は、ホームAV事業の譲渡中止に伴う売上増加が見込めるものの、増加する固定費などの経費を回収するほどの売上総利益の確保には至らず、さらにホームAV事業及びデジタルライフ事業における不採算モデルの処分などにより、営業利益は前回予想を3,000百万円下回る見通しとなりました。

経常利益は、上記営業利益の修正のほか、支払手数料が前回予想から約50百万円減少する見込みとなり、2,650百万円の経常損失の見込みとなりました。

親会社株主に帰属する純利益は上記経常利益の減少に加え、ホームAV事業譲渡に関連して発生した事業再編損を計上したこと、また、今後、人員削減や事業所の統廃合に必要な事業構造改革費用を特別損失に計上する予定であることから、3,000百万円の親会社株主に帰属する純損失となる見通しです。

当社は2019年11月11日に公表いたしました「今後の戦略について」に記載の通り、大規模な合理化策を開始するとともに、新たな資金調達による財務体質の健全化、各事業の発展のために必要な提携・協業について、様々な施策を組み合わせた具体的な検討を進め、経営改善を実行してまいります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以 上